

## 公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	チャレンジ・キッズ西脇第2				公表日 2025年 12月 23日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		療育は集団と個別を分けている。 感覚統合に適した広い空間がある。 療育内容によって活用するスペースを分けている。	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	80%	20%	役割を分けて全員で児童を見れる状態にしている。 集団での療育も児童を4人程度にして指導員が2人という体制にしているので安心。	児童の不規則な事態や職員の欠勤に備え十分な職員配置をしていきたい。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		構造化されていて、一日の流れがわかるよう工夫している。 座る場所を固定化しているので、自分の席がすぐわかる 視覚障害児に対して展示での表記を取り入れている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		毎日の清掃や療養終了後には除菌を行っている。	児童、保護者の意見も考慮しより良い環境にしていきたい。
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		児童の気持ちの切り替えや理解を促すために個別で対話できる環境を整えている。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	80%	20%	定期的に目標設定と振り返りを行っている。	パート職員など出勤時間が短い職員も参画できるよう工夫していきたい。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		保護者からの評価、意向を真摯に受け止め業務改善に努めている。また保護者からの連絡内容は全職員が周知できるよう情報共有を行っている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		毎日ミーティングを行い、業務上の問題点や困ったことなどを報告し合い、日々改善に繋げている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	70%	30%		第三者による外部評価は行っていないが、今後検討していきたい。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		研修の案内などを職員に提示している。また事業所内での定期的な研修も行っている。	
支援体制	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		各児童の個人ページでプログラム内容や様子を公表している。	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%		対象児童の特性を考慮し保護者の希望も含め計画を作成するよう努めている。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		児童発達支援管理責任者だけでなく職員と児童に対する情報共有を行い、計画に反映するように努めている。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		職員間で計画内容を共有し、支援に活かしている。	
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		フォーマル、インフォーマルなアセスメントを活用し各児童の特性を確認している。	

適切な支援の提供	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	90%	10%	職員間で児童個人に合ったプログラムを考えている。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		固定化、偏りがないようにしている。	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%		個別活動と集団活動の時間をスケジュール化し、各児童がスケジュールに沿って療育が受けられるようにしている。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		午前中にミーティングを実施している。支援上の問題点や課題を共有しチーム内での連携に努めている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	80%	20%	送迎や短時間勤務に伴い、毎日支援終了後に打ち合わせを行うのは困難だが、緊急性がある問題についてはその日のうちに共有するように努めている。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		支援の内容、様子を記録し職員間で共有している。今後の課題も共有しより良い支援につなげている。	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		定期的なモニタリングや保護者からの相談などから計画の見直しを行っている。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	100%			
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%		児童の意思を尊重し、選択・決定できるように関わっている。	
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		児童発達支援管理責任者と担当職員が参加しています。	
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%			
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%		学校、学童保育との情報共有を行っています。	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%		担当相談員から情報を得て、理解に努めている。	
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%		個人情報使用の同意書を頂いている利用者様に対しては今までの様子等の引継ぎを行っている。他事業所へ移行した利用者様については相談支援事業所と連携を取り情報提供する場合もあります。	
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	60%	40%	児童支援員の連携を図っている。	今後、必要に応じて地域の児童発達支援センターとの連携も図っていきたい。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	60%	40%	地域の図書館へ訪問する機会を設けている。	令和6年度は地域の他のこどもと交流する機会が持てなかつたので今後検討していくたい。
	33 (自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	100%			

保護者への説明等	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		モニタリングや送迎時等に発達の状況や課題について共通理解をしている。日々の療育の様子も保護者が閲覧できるように個別ページに適宜アップしています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	100%			
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		苦情や相談などがあれば丁寧かつ迅速に対応するよう努めています。対応方法についても職員間で共情報共有し体制を整えています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%		定期的にホームページの更新をし、情報発信しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		保護者には個人情報の取扱いについての同意書にサインいただき、職員一同取り扱いに留意している。	
非常時等の対応	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	30%	70%		今後、地域住民を招待できる行事も考慮ていきたい。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		保護者様には契約時に説明を行っています。職員に対しては入職時にマニュアルを周知し、年間計画での訓練も行っています。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		年間計画に組み込み避難訓練等を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%		看護師資格を持つ職員も配置し児童の状態に対処できるようにしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		現在、対応の児童はいないが、対象児童がいれば指示書に基づき対応していく。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	80%	20%		

52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		ヒヤリハット、インシデントレポートを作成し、再発防止策に努めている。	
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	90%	10%	定期的に事業所内での勉強会や新しく入職した職員に対して研修を行っている。	外部の研修に参加する機会を増やしていき、職員の知識・意識を高めていきたい。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等ティーサービス計画に記載しているか。	100%		やむを得ず身体拘束を行う場合には、保護者様に事前に説明と同意を得た上でいる。その際は記録を残し、職員間で共有をしています。	